

Web API 設計のベストプラクティス

[Enchant](https://www.enchant.com/) の開発者、

Vinay Sahni さんが書いた記事。

2015年の記事なのでちょっと古めですが、

明確なベストプラクティスがない API 設計において一度は読んでおきたい素晴らしい記事。

RESTful な URL にする

■ CRUD 操作

```
GET /tickets # チケットの一覧を取得
GET /tickets/12 # 指定したチケットを取得
POST /tickets # チケットを作成
PUT /tickets/12 # 指定したチケットを更新する
DELETE /tickets/12 # 指定したチケットを削除する
```

■ 関連モデルを操作

GET /tickets/12/messages

RESTful な URL にする

- CRUD 操作にマッチしない操作
 - 例1: リソースに対してアクティベーションさせる操作

PUT /gists/:id/star
DELETE /gists/:id/star

■ 例2: 複数のリソースを横断するようなアクション

GET /serach

SSL 通信を用いる

■ NG

http://hoge

OK

https://hoge

API仕様書を作る

著名な API の仕様書

- Github API
- Stripe

良い API 仕様書のポイント

- 誰でもアクセスできるところにある。
- リクエストとレスポンスの例が記されている。
- リクエストはコピーできるようになっている。
- APIの破壊的な変更のスケジュールなどをお知らせできる。

バージョンは URL に含める

- NG
 - バージョン指定をヘッダに含める

```
# endpoint
/users

# Request Header
Accept: application/json; version=v1
```

- OK
 - バージョン指定を URL に含める

```
# endpoint
/v1/users
```

リクエストパラメータを活用する

フィルタ

GET /tickets?state=open

ソート

GET /tickets?sort=-priority,created_at

検索

GET /tickets?q=return

よく使うパラメータがあるならエイリアスを作る

GET /tickets/recently_closed

レスポンスのフィールドを絞れるようにする

```
GET /tickets
# Got response
  id: 1,
  subject: "Sample Title",
  coutomer name: "John Doe",
  created at: "2022-04-29",
  updated at: "2022-04-30",
GET /tickets?fields=id, subject
# Got resoponse
 id: 1,
  subject: "Sample Title"
```

作成/更新後はリソースをフルで返す

```
POST /tickets

# Got response
{
   id: 2,
   subject: "Created ticket",
   created_at: "2022-04-30",
   updated_at: "2022-04-30
}
```

フィールドの命名規則を考える

API はスネークケース を使う。

JSONはデフォルトで整形する

■ NG

```
{id:1,subject:"Sample Title",coutomer_name:"John Doe",created_at:"2022-04-29",updated_at:"2022-04-30"}
```

```
id: 1,
subject: "Sample Title",
coutomer_name: "John Doe",
created_at: "2022-04-29",
updated_at: "2022-04-30"
}
```

要素はラップしない

■ NG

```
{
  "data" : {
    "id" : 123,
    "name" : "John"
  }
}
```

```
{
  "id" : 123,
  "name" : "John"
}
```

追加/更新のリクエストボディも JSON を使う

■ NG

```
POST /tickets
Content-Type: application/x-www-form-urlencoded
subject=sample&customer_name=john
```

```
POST /tickets
Content-Type: application/json
{
    subject: "sample",
    customer_name: "john"
}
```

ページング情報はレスポンスヘッダに入れる

■ NG

ページング情報はレスポンスヘッダに入れよう

関連データを埋め込む手段を作る

```
GET /tickets/12?enbed=customer.name,assign user
# Got response
  id: 12,
  subject: "sample",
  customer: {
    name: "John"
  assign_user: {
    id: 1,
    name: "Jane",
```

HTTPメソッドを上書き可能にする

■ 更新

POST /tickets/12

X-HTTP-Method-Override: PUT

削除

POST /tickets/12

X-HTTP-Method-Override: DELETE

リクエスト制限情報をレスポンスヘッダに入れる

Twitter の API で採用されている制限情報

X-Rate-Limit-Limit: 100 # 一定期間内にリクエストできる回数

X-Rate-Limit-Remaining: 99 # 次の期間までにリクエストできる残り回数

X-Rate-Limit-Remaining: 600 # 次の期間が来るまでの秒数

トークン認証を使う

■ Basic 認証

Authorization: Basic dXNlcjpwYXNzd29yZA==

キャッシュの情報をレスポンスヘッダに入れる

レスポンスヘッダにリソース情報を変換したものを含めることで変更を検知する。

- ETag を用いる方法
 - リソースのハッシュか、チェックサムを含める

ETag: "qa3311fa"

- Last-Modified を用いる方法
 - リソースの最終更新日時を含める

Last-Modified: Sat, 30 Apr 2022 03:21:05 GMT

エラーメッセージはちゃんと返す

■ NG

HTTP/1.1 422 Unprocessable entry
{}

エラーメッセージはちゃんと返す

```
HTTP/1.1 422 Unprocessable entry
{
    "code" : 1024,
    "message" : "Validation Failed",
    "errors" : [
        {
            "code" : 5432,
            "field" : "first_name",
            "message" : "First name cannot have fancy characters"
        }
    ]
}
```

- 良いエラーメッセージのポイント
 - ユニークなエラーコード
 - 原因の説明
 - (バリデーションエラーであれば)問題のあるフィールドとその理由

HTTPステータスコードを活用する

- HTTP レスポンスステータスコード
 - https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/Status

実際にやってみた

- Github
 - https://github.com/Horse-race-common-info-api/api